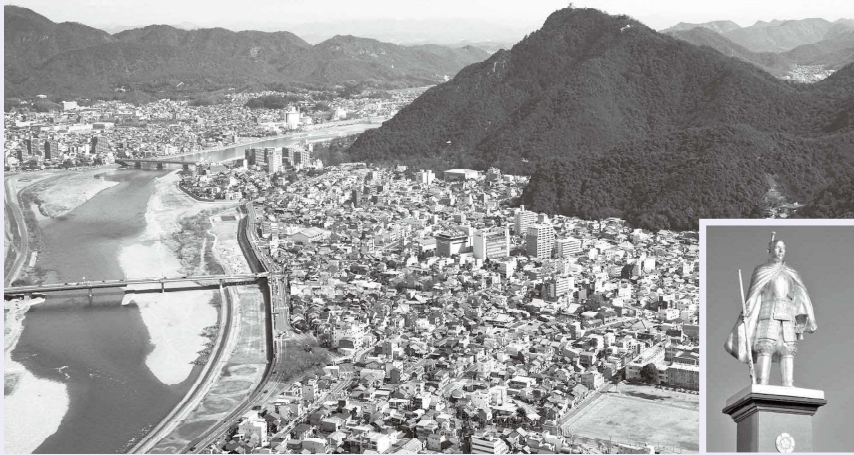


「信長公のおもてなし」が息づく 戦国城下町・岐阜 (岐阜県)



日本遺産



岐阜市のシンボルである金華山は標高約329メートル。頂上に築かれた岐阜城からの展望も「おもてなし」要素のひとつでした



岐阜市の駅前に立つ黄金の信長像

岐阜市の日本遺産「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜は、破天荒なイメージで知られる織田信長がつくり上げたおもてなし文化がテーマ。金華山や長良川、鶺鴒に代表される文化景観は、現在の岐阜市に綿々と受け継がれています。

「信長公のおもてなし」を楽しむ旅 金華山や長良川、鶺鴒など岐阜の伝統を物語に



岐阜城。近年天守台の石垣が発掘されました



発掘が進む信長の居館。庭園跡では滝の再現実験を行っています



旅館などでは信長のおもてなし料理を再現し提供

金華山麓の「信長の世界」

長良川が流れる濃尾平野にこもりとそびえる金華山には、戦国武将の斎藤道三や織田信長が居城を築きました。とくに信長は1567年、当時井口（いのみぐち）と呼ばれたこの二帯を岐阜と改称し、城や城下町の改装・改修に着手。軍事拠点である城を中心に据えて、金華山や長良川の自然環境や眺望を活かした文化的空間を創出し、公家や商人、有力大名などをもてなすことで、人脈を広げていきました。

とくに金華山の麓につくられた居館には、山の斜面を利用して2つの滝が流れる、山水画の世界を再現したかのような巨大なスケールの庭園が設けられ、招かれた宣教師のルイス・フロイスは「地上の楽園のようだ」と記しています。



鶺鴒で採れた鮎は皇室にも献上されます



和紙と漆による岐阜大仏。紙と水運の地・濃尾の象徴



岐阜まつりは春の風物詩

この居館は限られた人しか入ることができない「信長の世界」で、給仕も信長自身が行ったといわれています。

信長時代の文化が岐阜の伝統に

岐阜を代表する観光素材の一つ「鶺鴒」は古事記にも登場する長い歴史を持ち、信長の時代には鷹匠同様に「鶺鴒匠」として遇されるようになりました。このほか春の岐阜祭り、金華山の眺望や岐阜大仏など、「現在の岐阜の観光は道三、信長の文化政策を土台に発展してきた。それぞれ観光素材としては認知度が高いが、これらを物語として見せる工夫もしていきたい」と日本遺産「信長公のおもてなし」岐阜市推進協議会は話します。